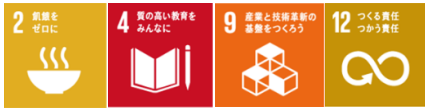


## 普及現地情報



発信年月日：令和4年(2022年)8月2日  
所属名：大津・南部農産普及課  
番号：A22004  
部門分類：610(担い手育成)  
発信者名：川村、柴田、大崎

## 2年ぶりの県外視察！SDGsを学ぶin石川！！

7月7日、8日、大津地域青年農業者クラブ<sup>きらり</sup>季楽里と当課職員で、クラブ員の経営向上を図るべく先進農家の視察を行いました。今回の視察テーマとして、複合経営とSDGsの取組を当課から提案しました。

視察先のひとつ農事組合法人One(以下One)は複合経営(水稻(40ha)、レンコン(7ha)、農産物加工)の経営体で、SDGsを意識した経営に取り組まれています。

Oneは、地域の消費者へのヒアリングから、消費者、販売事業者(以下スーパー)とOne(生産者)との間の農産物の規格に対する意識の違いに気づき、スーパーと話し合いを続け、青果用から総菜の加工原料まですべての農産物をスーパーに販売し、廃棄する農産物を削減する体制を構築しました。その結果、消費者、スーパー、生産者(One)全員にとって利益のある、いわゆる“三方よし”の取組となったそうです。

Oneの宮野副代表は「地域に根ざし、地域に求められる経営体を目指している。地域、社会、環境に配慮し、かつ営業を積極的に行うことで、三方よしの取組に成功した。」と話されていました。視察後、クラブ員からは「地域を考えることが経営を考えることに繋がり、とてもためになった」、「経営と生産の両方を行うプレイングマネジャーではなく営業に特化しておられる点が参考になった」など活発に意見が出ました。また、視察に参加できなかったクラブ員への情報を還元できるように、当課からもSDGsに関する質問をし、食品ロスへの取組の情報をクラブの定例会で共有しました。

今後も当課では、地域から必要とされるクラブ活動やクラブ員の資質向上につながる取組を支援していきます。



農事組合法人Oneの宮野氏と意見交換するクラブ員。



農業法人Oneのほ場でSDGsの取組について説明を受けました。